

ユーロと新通貨の誕生

ユーロ危機が収まらない。それどころか事態は悪化している。ある時点で合理的な危機解決策が次の段階では有効ではなくなる。政治家がすったもんだの末に合意しても、そのときは次の問題が生まれている。

良く考えてみればそれも当然だ。そもそもユーロ自体が欧州の政治統合のプロセスで誕生したもので、政治統合前の統一通貨は矛盾をはらんでいる。だからいくら合理的な議論をして合理的な解決策を見出したように見えても、矛盾は続く。たまねぎの皮をむいているようなものだ。

政治統合に進む前に少しでも矛盾を取り除こうとすれば、ユーロを再編するとの考え方はまっとうに見える。ギリシャの債務危機が表面化した早い段階で、ドイツのブンデスバンク関係者はギリシャのユーロ離脱を唱えた。

ギリシャが自国通貨ドラクマに復帰すればドラクマは大幅に下落する。そこで競争力を回復した後にユーロに復帰する。だが今はもうこのシナリオは現実的ではない。ギリシャが離脱すればアイルランド、ポルトガルも離脱しなければならない。スペイン、イタリアにも市場の圧力がかかる。事態は一層悪化する。

そこでプラン C になる。ドイツの産業連盟の前会長によれば、ドイツ、オーストリア、オランダ、フィンランドなどがユーロ圏を離脱する。新しい通貨を構成する。ユーロはそのままだ。ユーロは新しい通貨に対して下落する。そこでユーロは競争力を回復する。その場合ユーロは新しい通貨に対してだけでなく、ドルに対しても円に対しても大幅に下落する。

市場ではどんなことでも起こる。17か国が一つの通貨にまとまる努力に比べたら、ユーロを二つに分けることは困難ではない。こうした主張が非現実的に思えないのも現在のユーロ危機の深さゆえだ。